

単元名（教材名）

私と本（光村図書『国語六 創造』）

単元の目標

- ◎ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くことができる。
【知識及び技能(3)オ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
【思考力、判断力、表現力等 C「読むこと」(1)オ】
- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
【思考力、判断力、表現力等 C「読むこと」(1)カ】

読解力向上プランVer. 2における指導のポイント

⑤ 見たことや聞いたこと、考えたことを省略せずに丁寧に説明させる。（照応解決）

「私と本」単元計画（全5時間）

	学習活動	指導上の工夫
事前	教師によるブックトークを見る。	日常的な取組 ○ 授業の前に、授業中に、教師が大切にしたいこと 「授業の前に、教科書の中の、児童生徒が理解できないと考えられる語や表現を確認しておく。」
1	アンケート結果を見て自分との関わりについて友だちと話し合う。	本の「テーマ」がイメージしづらいかもしれないな。具体例を出して説明しよう。
2	「森へ」を読んでブックトークのテーマについて考える。	「どこが」「どうして」「どのように」おもしろかったのかな。丁寧に説明しましょう。
3	ブックトークに向けて内容を考える。	指導のポイント⑤ 「見たことや聞いたこと、考えたことを省略せずに丁寧に説明させる。」
4	本の魅力が伝わるよう、ポイントを意識してブックトークの内容を仕上げる。	
5	ブックトークをする。	日常的な取組 ○ 授業で、家庭で、大切にしたいこと 「読書活動を推進し、未知の世界や新しい言葉と出会う楽しさを味わわせましょう。」

◇実践のポイント◇



今回は、児童がブックトークのイメージをもちづらいついてきて、事前に教師がブックトークをする場を設けました。教師が実際にブックトークをすることで、児童が学習活動をより具体的にイメージすることができ、ブックトークの内容を考える際に意識させたいポイントが明確になります。また、教師がブックトークのモデルを見せることは、児童の学習への動機付けにもつながります。

本の魅力を伝えるためには、ただ「おもしろかった」「感動した」だけではなく、「どこが」「どうして」「どのように」おもしろかったのか、感動したのかを言葉を省略せずに具体的に説明することが大切です。また、指導のポイント⑤は、日直の朝の会のスピーチなどでも学級で意識して取り組むことができます。

